

特定非営利活動法人 奈良県防災士会

令和7年度 総会

と き 令和7年5月25日（日）

ところ 王寺町地域交流センターリーバーホール

特定非営利活動法人 奈良県防災士会 令和7年度総会次第

- 一、 開会
- 二、 理事長挨拶
- 三、 来賓挨拶
- 四、 来賓紹介
- 五、 出席状況報告
- 六、 議長選出
- 七、 議事
 - 第1号議案 令和6年度 事業報告
 - 第2号議案 令和6年度 収支決算報告
 - 第3号議案 令和6年度 監査報告（事業・会計）
 - 第4号議案 令和7年度 事業計画
 - 第5号議案 令和7年度 会計収支予算
- 八、 閉会
- 九、 集合写真撮影
- 十、 記念研修会

知事先生
お忙しい中
ご参加いただき
ありがとうございます

② 会長
挨拶

③ NHKから
↓ 下地

④ 町長 挨拶

⑤ 総会
開会
挨拶
い。

※ 本総会の開催は災害等の理由で変更される場合があります。

中止、延期の場合は奈良県防災士会ホームページのお知らせに表示
しますのでご確認ください。

第1号議案

特定非営利活動法人奈良県防災士会 令和6年度 事業報告

令和6年度は新型コロナが収束し、特定非営利活動法人奈良県防災士会（以下奈良県防災士会）としてこれまで通り研修会を開催するとともに、県内各種団体からの要請を受け約100件を超える防災研修、訓練、講演会への講師派遣に取組みました。また、災害ボランティアに積極的に取組んだ1年でもあります。能登半島地震では、石川県支部からの応援要請を受けて被災地（石川県珠洲市・能登町）へ、これまで団体・個人含め累計19回、のべ150名が支援に向かいました。昨年8月8日に宮崎県沖で発生したM7.1の地震では「南海トラフ地震臨時情報（巨大地震注意）」が発表された事により、巨大地震の脅威を感じた方も多いと思います。奈良県内で災害が発生した場合は、平時より地域に密着して活動している防災士の存在がこれまで以上に重要となる事を確信した1年となりました。

一、 定款に掲げる特定非営利事業

1、防災意識の普及、啓発、防災まちづくり推進事業

防災活動の基本である“命”を守ることを理念として、地域や職場から信頼を得て協力関係を築き、自主防災活動の活性化に取り組みました。

① 地区防災計画の取組み

県内各地域の「地区防災計画」策定は、奈良県防災士会の広報により徐々に認知され、各地で作成につながっています。具体的な例では川上村東川（うのかわ）地区における地区避難計画書作成において、防災士が住民を主導し計画書が完成致しました。

② 各地域や職場でのマニュアル作りと活動紹介と交流

各種訓練や研修を通じてマニュアル作りのきっかけとなるよう働きかけました。今期は企業からの講演依頼も多く、主に能登半島地震支援の講話をさせて頂いております。

③ 防災スキルアップ研修を開催

令和6年5月26日（日）に開催された総会記念講演として、奈良地方気象台による「気象台の最近の取り組み」について講演頂きました。また令和7年2月24日（月・休）には、王寺町リーバーホールにて、石川県防災士会 大月真由美様をお迎えし「令和6年能登半島地震・豪雨から学ぶ備え」と題した講演を開催致しました。

④ 高齢者施設及び団体や福祉施設・福祉団体への取組みを強化

福祉施設や福祉団体との連携が進んでいます。大和高田市民生児童委員協議会連合会の研修では、「災害時における民生委員・児童委員の役割」として講演させて頂いております。

⑤ 子供たちと一緒に学べる取組みや学校やPTAとの連携

三郷中学校、耳成小学校、耳成南小学校、都祁中学校、田原本北小学校、王寺町南義務教育学校、奈良工業高等専門学校で行われた防災イベントで、防災士会との連携が続いています。

⑥ 奈良県を始めとした県内自治体との連携

奈良県自主防犯・防災リーダー研修では、防災リーダー養成カリキュラムのひとつを奈良県防災士会として受け持ちました。市町村では、斑鳩町、王寺町、葛城市、奈良市、香芝市、平群町、川西町、天理市、川上村、大和高田市、明日香村、広陵町、河合町、上北山村、橿原市、吉野町、三郷町での各種防災訓練や研修を通じて防災意識向上に寄与しました。

⑦ 県内で防災に取り組む団体との交流

防災に取り組む団体との交流として、平群町防災士ネットワーク、王寺町防災士ネットワーク、葛城市防災士会、斑鳩町自主防災連絡会、香芝市自治連合会、河合町自主防災ネットワーク、奈良市自主防災防犯協議会の会合に参加し情報交換、意見交換を進めました。

2、防災関連用品、用具の普及・提供事業

頒布品として、今年は新たに夏場に最適な奈良県防災士会名入りビブスをランナップしました。ベスト及び帽子も引き続き販売しております。

3、災害被災地への支援事業

① 災害被災地への支援活動

令和6年1月1日に発災した能登半島地震では、石川県防災士会の応援要請を受けて、昨年度に引き続き支援を継続しました。9月には地震対応のボランティアニーズが徐々に減少、ボランティアセンターも週末型になるとの情報を得、団体としてのボランティアを終了する予定でした。その矢先9月21日から23日までの能登半島豪雨により輪島市、珠洲市、能登町が河川氾濫や土砂災害に見舞われ、仮設住宅までもが浸水する事態となり、大会として支援継続を決定。以降計4回のボランティア派遣を行いました。令和7年に入り各地域のボランティアニーズは減少している中で、七尾市でボランティアが不足していると情報があり、各所と調整し3月に支援に入りました。災害支援金としては石川県防災士会へ20万円、昨年7月に発生した秋田県と山形県での豪雨災害で奮闘する秋田県・山形県・新潟県の各支部へ10万円を送金しております。支援金にご協力頂きました皆様には厚く御礼申し上げます。

② 組織内の相互支援体制整備

役員及び事務局では、業務分担を振り分けし、特定の個人への負担が重くならない様な配慮を行っております。また2人以上が業務内容を理解し、相互支援体制の確立を推進しております。

③ 災害ボランティア登録者の募集とスキルアップ、専門チームの育成

大会への新規加入の際、入会案内と共に「災害ボランティア登録申請用紙」を送付し、メンバー募集を継続しております。実際に災害ボランティア活動に従事する事が、一番のスキルアップとなりますので、登録者には積極的に参加頂きたいと考えております。

④ 社会福祉協議会との連携

奈良県社会福祉協議会との連携は進んでいます。奈良県社会福祉協議会が進める県内災害支援団体が集まる「奈良防災プラットフォーム連絡会」には板垣理事、石川理事を中心に継続して参加しています。また、県内市町村社会福祉協議会との連携として、平群町社会福祉協議会、大和高田市社会福祉協議会や安堵町社会福祉協議会では災害ボランティアセンター開設・設置訓練に参加致しました。

4、防災・減災のために活動する団体を支援する事業

奈良県自主防災訓練支援事業として奈良県及び「奈良市」「大和高田市」「上北山村」で計3件の委託業務を実施しました。また奈良県自主防災アドバイザーとして県内の自主防災組織へ講師を派遣しました。平群町での防災連続講座にも講師派遣をしております。他にも奈良市朱雀2丁目朱雀の会、斑鳩町三地区自主防災組織連絡会、葛城市東室区、奈良市六条校区自主防災・防犯会、奈良市大宮地区防災防犯協議会、斑鳩町自主防災連絡会、香芝市自治連合会、川西町人権教育推進協議会、天理市蔵之庄町自治会、奈良市済美地区自主防災防犯協議会、葛城市太田区、奈良市北袋町自治会、葛城市柿本区、奈良市学園南地区自主防災・防犯協議会、ヴィルヌーブ学園前Iコンセルト自治防災会、天理市川原城本町町内会、香芝市穴虫西自治会自主防災会、吉野町区長連合会、明日香村雷大字自主防災会、広陵町馬見北6丁目自主防災会、奈良市平城西地域自治協議会・平城西地区自主防災防犯会、明日香村阿部山自主防災会、道の駅クロスウェイなかまち、奈良市都祁4地区自主防災防犯会、明日香村八釣大字自主防災会、奈良市西大寺東町一丁目自治会、奈良市自主防災防犯協議会、奈良市生涯学習財団、広陵中央ビクトリー会、奈良まほろばPHP友の会、大和高田市松塚自主防災会へ、講師派遣や訓練参加の支援を行いました。

5、広報事業

① 広報誌の発行

年二回（夏冬）奈良県防災士会広報誌を発行し、会員に送付しました。広報紙には活動報告や各種防災イベントの記事を掲載し、会員の防災活動に役立つ内容としました。

② ホームページおよびメールマガジンの積極的活用

奈良県防災士会ホームページのお知らせ、活動報告、災害復興支援を随時更新しました。また Facebook にリンクさせ、最新の情報を提供致しました。奈良県防災士会からの研修受講募集や案内をメールマガジンで行いました。

③ テレビ、ラジオなどでの奈良県防災士会の PR

NHK 奈良放送局では「南海トラフ臨時情報に伴う地震対応と避難対応について」「台風への備え」で出演しました。NHK 関西発ラジオ深夜便での電話出演や奈良新聞の取材に対応しました。

二、 その他、法人の目的を達成するために必要な事業

1、組織の拡大・強化の取り組み

奈良県主催の自主防犯・防災リーダー研修(防災士養成講座)に講師として参加し、県防災士会への入会を呼びかけ、組織の拡大・強化に取り組みました。同時に、特定非営利活動法人日本防災士会本部会員(正会員)の拡大を進めました。令和7年4月1日現在の会員数は428名です。(正会員141名、賛助会員287名)

2、指導者の養成の取り組み

講演講師や訓練の責任者となる人材の育成を図るべく、会員へ各種研修会や講演会への応援要請を行いました。各種研修会や講演会と一緒に参加頂くことやお手伝いをして頂くことで、一連の流れを知って頂く事ができます。初めての方には、まず訓練運営の補助から活動する機会を設けています。

3、関係団体との連携強化

奈良地方气象台との連携を強化しました。記念研修会で講演頂き、懇談会への参加、「夏休みお天気フェア」での当会ブース出展や勉強会など、これまで以上に関係が緊密となりました。大和川流域水害対策協議会と木津川上流部大規模水害・土砂災害に関する減災対策協議会にも参画しています。

4、会員相互のネットワーク作り

総会や研修会後には懇親会の場を設け、会員間の親睦を図りました。また講演会や訓練に準備から参加して頂いた方とは、「顔の見える関係」として気軽に連絡できる関係となりました。

5、県内で被災地支援に取り組む団体との交流

能登半島地震の発災直後から支援を行う「災害救援レスキューアシスト」との交流を図りました。引き続き、他の団体との連携を探って行きます。

6、日本防災士会本部、関西支部連絡協議会との連携

日本防災士会本部との連携は本部理事会や支部長会議、ダイバーシティ委員会への参加を通して連携しています。また、関西支部連絡協議会とも、総会や支部代表者会議などで連携を行ってきました。

2024年度 収支決算報告
 特定非営利活動に係る事業会計 活動計算書
 令和6年4月1日から令和7年3月31日まで

特定非営利活動法人奈良県防災士会

科目	予算	金額 (単位: 円)		
(経常収支の部)				
I. 経常収入の部				
1. 会費収入				
正会員会費収入	280,000	246,000		
賛助会員(個人)会費収入	500,000	526,000		
賛助会員(法人)会費収入	60,000	60,000	832,000	
2. 事業収入				
(1) 防災意識の普及、啓発、防災まちづくり推進事業	800,000	785,000		
(2) 防災関連用品用具の普及・提供事業	20,000	117,000		
(3) 災害被災地への支援事業	0	0		
(4) 防災・減災のために活動する団体を支援する事業	500,000	337,600		
(5) 広報事業	0	0		
(6) その他、法人の目的を達成するために必要な事業		0	1,239,600	
3. その他収入				
助成金(本部、奈良県社協)	160,000	368,002		
受取寄付金		283,340		
利息収入				
雑収入	10,000	36,417	687,759	
当期収入合計	2,330,000			2,759,359
前期繰越額		3,860,062	3,860,062	
経常収入合計				6,619,421

科目	予算	金額 (単位: 円)		
II. 経常支出の部				
1. 事業費				
(1) 防災意識の普及、啓発、防災まちづくり推進事業				
避難所運営(HUG)訓練	100,000	47,000		
防災スキルアップ研修他	200,000	121,592		
防災講演、AED指導	400,000	478,797	647,389	
(2) 防災関連用品用具の普及・提供事業				
頒布品の普及	50,000	243,900		
防災用品開発及び普及			243,900	
(3) 災害被災地への支援事業				
大規模災害被災地支援活動	400,000	903,774		
災害対策訓練・防災訓練の実施			903,774	
(4) 防災・減災のために活動する団体を支援する事業				
災害対策訓練・防災訓練の実施	200,000	60,000		
防災士少数地域への支援等	0		60,000	
(5) 広報事業				
広報誌の発行	160,000	152,342		
HPの更新・管理	110,000	68,200		
WEB、メルマガ活用	100,000	0	220,542	
(6) その他、法人の目的を達成するために必要な事業	280,000	394,570	394,570	
	2,000,000			2,470,175

2. 一般管理費				
(1) 会議費				
会議費	50,000	44,387	44,387	
(2) 運営費				
旅費交通費	0	32,138		
通信運搬費	70,000	62,407		
消耗品費	10,000	0		
印刷製本費	10,000	9,220		
地代家賃	84,000	84,000		
修繕費	50,000	0		
支払手数料	4,000	3,260		
水道光熱費	15,000	14,358		
雑費	35,000	56,396		
租税公課	2,000	0		
支払寄付金	0	0	261,779	
	330,000			306,166
3. 予備費				
(1) 予備費	0	0	0	0
経常支出合計	2,330,000			2,776,341
経常収支差額				3,843,080
Ⅲ. その他資金収入の部				
その他の資金収入合計	0			0
Ⅳ. その他資金支出の部				
その他の資金支出合計	0			0
当期繰越収支差額	0			▲ 16,982
前期繰越収支差額	4,743,823		3,860,062	3,860,062
次期繰越収支差額	4,743,823			3,843,080

第3号議案

監事監査報告書

特定非営利活動法人 奈良県防災士会
理事長 末田 政一 様

令和7年4月1日
特定非営利活動法人 奈良県防災士会

監事 堀田 東作 
監事 古瀬 博之 
監事 奥田 英人 

私達は、令和6年4月1日から令和7年3月31日までの会計及び業務の監査を行い、次のとおり報告する。

監査の方法の概要

- (1) 会計監査について、帳簿並びに関係書類の閲覧等必要と思われる監査手続きを用いて計算書類の正確性を検討した。
- (2) 業務監査について、事業報告書を確認し、また理事から業務の報告を聴取し、関係書類の閲覧等必要と思われる監査手続きを用いて、業務執行の妥当性を検討した。

監査意見

- (1) 活動（収支）計算書、貸借対照表、財産目録は、会計帳簿の記載金額と一致し、法人の収支状況及び財産状態を正しく示しているものと認める。
- (2) 事業報告書の内容は真実であると認める。
- (3) 理事の職務執行に関する不正の行為または法令もしくは定款に違反する重大な事実はないと認める。

以上

第4号議案

特定非営利活動法人奈良県防災士会

令和7年度（2025年）事業計画

はじめに

昨年夏には南海トラフ地震臨時情報が初めて発表されました。能登半島では地震・水害・土砂災害の多重災害が発生した影響で、昨年度も沢山の講演や訓練のご依頼を頂き、積極的に講師派遣を行いました。しかしながらコロナ禍で足踏みをしていた間に講師陣やスタッフの年齢層が上がってしまった影響が少しずつ出てきています。今後多くのご要望にお応えするためにも、講師やスタッフの増員が急務です。また地域防災力向上のために、防災士相互のコミュニケーションとスキルアップを充実させるべく、本年度はブロック割りを見直し、近くで参加しやすい研修会を企画します。また災害復興支援の需要が増えていることから、ボランティア登録者の募集を継続し、裾野を広げて行きます。

今一度、原点に立ち返り、私たち防災士会会員の果たすべき役割を見つめ直し、今年度は以下の通り取組みを進めます。

一、 定款に掲げる特定非営利事業

1、防災意識の普及、啓発、防災まちづくり推進事業

防災活動の基本は“命”を守ることです。あらためて防災士が生まれた経緯と防災士本来の役割に立ち返り、地域や職場での信頼を得て協力関係を築き、積極的に自主防災活動に参加し活性化を図ります。そのために、

特定非営利活動法人奈良県防災士会

令和7年度（2025年）事業計画

はじめに

昨年夏には南海トラフ地震臨時情報が初めて発表されました。能登半島では地震・水害・土砂災害の多重災害が発生した影響で、昨年度も沢山の講演や訓練のご依頼を頂き、積極的に講師派遣を行いました。しかしながらコロナ禍で足踏みをしていた間に講師陣やスタッフの年齢層が上がってしまった影響が少しずつ出てきています。今後多くのご要望にお応えするためにも、講師やスタッフの増員が急務です。また地域防災力向上のために、防災士相互のコミュニケーションとスキルアップを充実させるべく、本年度はブロック割りを見直し、近くで参加しやすい研修会を企画します。また災害復興支援の需要が増えていることから、ボランティア登録者の募集を継続し、裾野を広げて行きます。

今一度、原点に立ち返り、私たち防災士会会員の果たすべき役割を見つめ直し、今年度は以下の通り取組みを進めます。

一、 定款に掲げる特定非営利事業

1、防災意識の普及、啓発、防災まちづくり推進事業

防災活動の基本は“命”を守ることです。あらためて防災士が生まれた経緯と防災士本来の役割に立ち返り、地域や職場での信頼を得て協力関係を築き、積極的に自主防災活動に参加し活性化を図ります。そのために、

- ① 地域在住の防災士と住民とで作成する地区防災計画の取組みを支援します。県内各地域の進捗状況の把握に努めます。地域防災力向上に向けて、希望される地域での地区防災計画策定に取り組みます。
- ② 各地域や職場でのマニュアル作りをより一層進めながら、すでに取り組んでいる先進地域の活動紹介と交流を図ります。
- ③ 情報や技術の継承のために、防災スキルアップ研修を開催します。
- ④ 高齢者施設及び団体や福祉施設・福祉団体への取組みを、より一層強化します。
- ⑤ 引き続き学校やPTAとの連携を強めて、子供たちと一緒に学べる環境を整えます。
- ⑥ 奈良県を始めとした県内自治体との連携を強め、県民の防災意識の向上に努めます。
- ⑦ 県内で防災に取り組む全ての団体と交流を図ります。

2、防災関連用品、用具の普及・提供事業

会員や防災士、県民に有益な防災用品の普及に取り組みます。昨年度に新しく作った夏用ビブスに加え、防災士ベストと帽子的頒布を継続します。また、防災士会のPRと防災士会活動をより活性化できるように頒布品の開発・普及に取り組みます。

3、災害被災地への支援事業

昨年は能登半島地震への支援に注力しました。今後も被災地からボランティアの要請に応えられるような体制作りを行います。加えて私たちの住む奈良県で大規模災害が発生した時の受援体制を整えることも急務です。県内が被災地になった場合、会員一人ひとりの行動が問われます。そのために県内での協力体制と受援力のアップに取り組みます。

- ① 災害発生地域の事情や状況を最優先としながら、その時私たちが出来る災害被災地への支援活動を行います。
- ② 県内が被災地になることも想定し、組織内の相互支援体制を整えます。
- ③ 災害ボランティア登録者を継続募集します。新規入会会員に募集案内を送付します。災害ボランティア登録者にはボランティア研修を実施しスキルアップを行い、支援に役立てるとともに、会員の中で小型重機や無線免許を持つ方で専門チームの立ち上げを目指し、災害発生時に対応出来る準備を行います。

- ④ 県社会福祉協議会及び各市町村社会福祉協議会と連携し、災害ボランティアセンター開設・運営への研修を行い、受援体制作りを進めます。

4、防災・減災のために活動する団体を支援する事業

昨年度は奈良県の自主防災訓練支援事業ならびに自主防災アドバイザー派遣事業の担当部署が安全・安心まちづくり推進課から防災統括室に引継がれましたが、今年度も継続して実施する予定です。加えて県と共催での研修会も引き続き実施していきます。また県内自治体からの要請や、多くの学校や教育委員会、障がい者団体や高齢者施設からの要請が増えていることから、体制の強化に努め、今後も防災・減災のために活動する団体への支援活動を充実させます。

5、広報事業

情報伝達手段としてホームページは大きな役割を果たしています。合わせてFacebook への併記を行い、会員専用ページの有効活用を進めると共に、会員へメール等の活用を積極的に促します。ただネット環境を持たない会員も一定数あることから実情にあわせた広報活動が必要です。引き続き広報誌の定期発行と、状況に応じて文書での各種研修会等の案内を行います。

- ① 広報誌（年2回）の発行を進めます。
- ② ホームページの随時更新・管理を行います。また、会員専用ページの有効活用に取り組みます。
- ③ 会員に向けた各種研修会等の案内を発行します。
- ④ メディア（テレビ・ラジオ・新聞等）を通じて、防災意識の向上に努めます。

二、 その他、法人の目的を達成するために必要な事業

1、組織の拡大・強化に取り組めます。

正会員、賛助会員、団体会員の拡大を図ります。引き続き、県が主催する「奈良県自主防犯・防災リーダー研修（防災士養成講座）」参加者への防災士会入会を呼びかけます。22歳以下の会員の年会費免除を行い、若い防災士を増やします。また事務局体制と組織体制の整備を行い、若返りを図って実効性のある組織作りを目指します。県内防災士少数地域への支援を行います。組織内の相互支援体制作りとして、BCP（事業継続計画）の策定を目標に、県内で災害が発生した時に、防災士会会員がどう動け

ば良いのかを整理し、会員がお互いに連絡を取りながら、支援できるような体制づくりを進めます。

2, 指導者養成に取り組めます。

講師派遣や相談が急増しています。講師・指導者の育成は急務です。訓練や事務局のお手伝い等の機会を通じ、会員がスキルアップ出来る場を提供します。各地域やブロック、市町村の防災士ネットワークでの講師、指導員育成に取り組めます。

3, 関係団体との連携を強めます。

奈良県防災士会はNHK奈良放送局と連携協力の協定を結んでいて、相互の交流を図っています。今後は情報共有を含め連携を強化していきます。コミュニティFM局（ならどっとFM・FMヤマト）にも引き続き協力していきます。奈良地方気象台や県社会福祉協議会、市町村社会福祉協議会などの関係団体と引き続き連携を強めます。学校や教育関係者、福祉施設や福祉団体からの問合せや依頼にも、継続して対応します。大和川流域水害対策協議会と木津川上流部大規模水害・土砂災害に関する減災対策協議会に引き続き参画し、地域防災士へ水害リスクへの周知を実施します。奈良県防災プラットフォームを通じ、地域単位での連携ができる体制づくりを進めます。

4, 会員相互のネットワーク作りを進めます。

行政区域内での防災士相互ネットワークの取り組みとして、平群町、広陵町、葛城市、橿原市、王寺町ではネットワークが設立されて会員相互の「顔の見える関係」が少しずつではありますが出来てきました。今年度はブロック割りを4ブロックに戻し、ブロック別研修会など、身近で参加しやすい集まりの機会を増やし、地域の活動を活発化させます。引き続き会員の特技やスキル、様々な有資格者間でのネットワークづくりを進めます。そのために会員相互の情報を集めながら取り組みを強化します。

5, 県内で被災地支援に取り組む団体との交流を進めます。

現在、奈良県では県社会福祉協議会を中心に災害発生時における円滑な災害ボランティア活動が行われるように災害ボランティア調整会議の立上げを目指した活動が動き出しています。この会議には県内で活動する様々な災害ボランティア団体が参加しています。これらの団体との交流を進めます。

7, 日本防災士会本部、関西支部連絡協議会との連携を強めます。

日本防災士会本部と奈良県防災士会（奈良県支部）の連携を強め、本部主催の研修会などに積極的に取り組みます。また、関西支部連絡協議会との連携、協力関係を強め、なにかあれば助け合う関係づくりを進めます。今後も奈良県防災士会（奈良県支部）が中心的役割を果たせるような取り組みを進めて行きます。

2025年度 会計収支予算

特定非営利活動に係る事業報告 活動予算書

令和7年4月1日から令和8年3月31日まで

特定非営利活動法人奈良県防災士会 (単位: 円)

科目	2024年度予算	2024年度決算	2025年度予算
(経常収支の部)			
I. 経常収入の部			
1. 会費収入			
正会員会費収入	280,000	246,000	250,000
賛助会員(個人)会費収入	500,000	526,000	550,000
賛助会員(法人)会費収入	60,000	60,000	60,000
2. 事業収入			
(1) 防災意識の普及、啓発、防災まちづくり推進事業	800,000	785,000	800,000
(2) 防災関連用品用具の普及・提供事業	20,000	117,000	50,000
(3) 災害被災地への支援事業	0	0	0
(4) 防災・減災のために活動する団体を支援する事業	500,000	337,600	400,000
(5) 広報事業	0	0	0
(6) その他、法人の目的を達成するために必要な事業	0	0	0
3. その他収入			
助成金	160,000	368,002	160,000
受取寄付金		283,340	
利息収入			
雑収入	10,000	36,417	50,000
当期収入合計	2,330,000	2,759,359	2,320,000
経常収入合計		5,600,320	

(単位: 円)

科目	2024年度予算	2024年度決算	2025年度予算
II. 経常支出の部			
1. 事業費			
(1) 防災意識の普及、啓発、防災まちづくり推進事業	700,000	647,389	750,000
*避難所運営(HUG)訓練	100,000	47,000	100,000
*防災スキルアップ研修他	200,000	121,592	150,000
*防災講演、AED指導	400,000	478,797	500,000
県内自治体との連携			
学校・教育委員会との連携			
会員向け定例研修会			
(2) 防災関連用品用具の普及・提供事業	50,000	243,900	50,000
頒布品の普及	50,000	243,900	50,000
*防災用品開発及び普及			
(3) 災害被災地への支援事業	400,000	903,774	400,000
*大規模災害被災地支援活動	400,000	903,774	400,000
*災害対策訓練・防災訓練の実施	0	0	0
ボランティア登録			
東日本大震災への支援活動			
水害・土砂災害への支援活動			
(4) 防災・減災のために活動する団体を支援する事業	200,000	60,000	200,000
*災害対策訓練・防災訓練の実施	200,000	60,000	200,000
*防災士少数地域への支援等	0	0	0
社会福祉協議会への支援			
関係機関との連携			
自主防災会などへの支援			
団体会員への支援			
(5) 広報事業	370,000	220,542	320,000
*広報誌の発行	160,000	152,342	160,000
*HPの更新・管理	110,000	68,200	110,000
*WEB、メルマガ活用	100,000	0	50,000
イベント出展			
(6) その他、法人の目的を達成するために必要な事業	280,000	394,570	280,000

2. 一般管理費			
(1) 会議費	50,000	44,387	50,000
会議費	50,000	44,387	50,000
(2) 運営費	280,000	261,779	270,000
旅費交通費	0	32,138	20,000
通信運搬費	70,000	62,407	60,000
消耗品費	10,000	0	10,000
印刷製本費	10,000	9,220	10,000
地代家賃	84,000	84,000	84,000
修繕費	50,000	0	15,000
支払手数料	4,000	3,260	4,000
水道光熱費	15,000	14,358	15,000
雑費	35,000	56,396	50,000
租税公課	2,000	0	2,000
2. 予備費	0	0	0
経常支出合計	2,330,000	2,776,341	2,320,000
経常収支差額	0	▲ 16,982	0
Ⅲ. その他資金収入の部			
その他の資金収入合計	0	0	0
Ⅳ. その他資金支出の部		0	
その他の資金支出合計			
当期収支差額	0	▲ 16,982	0
前期繰越収支差額	次期繰越収支差額	3,860,062	3,843,080
次期繰越収支差額	次期繰越収支差額	3,843,080	3,843,080

特定非営利活動法人 奈良県防災士会
令和7年度 総会

別紙資料

特定非営利活動法人奈良県防災士会

令和7年度 総会

令和6年度(2024年) NPO法人奈良県防災士会 活動報告

※参加者数は、主催者発表による。

主催者又は要請団体				日時および場所				内容	参加者数
地域	団体名	年月日	曜	時間	時間	会場			
1	奈良市 朱雀2丁目朱雀の会	6.4.08	月	14:00～ 15:30	い会館	能登半島地震の話と地震防災タイムライン	杵島	12人	防災士会参加者
2	三宅町 奈良県防災士会	6.4.21	日	09:00～ 10:00	三宅町あざさ苑	理事会	板垣、板谷、植村、奥田、小山、末田、杉村、八幡領、古瀬、南上、八木沢、高岡、堀田、村山、杵島、岡本、北村(し)、修田、山口、吉岡、大坂間	21人	
3	三宅町 奈良県防災士会	6.4.21	日	10:10～ 12:30	三宅町あざさ苑	総会議案書等発送作業	板垣、板谷、小山、末田、杉村、八幡領、古瀬、南上、八木沢、高岡、堀田、村山、杵島、岡本、北村(し)、修田、山口、吉岡	18人	
4	三宅町 奈良県防災士会	6.4.21	日	12:30～ 12:50	三宅町あざさ苑	事務局会議	板垣、板谷、小山、末田、杉村、八幡領、八木沢、村山、岡本、北村(し)、修田、山口、吉岡、植村	14人	
5	三宅町 日本防災士会	6.4.21	日	10:00～ 11:30	Zoomオンライン	本部臨時理事会	植村	1人	
6	斑鳩町 斑鳩町三地区自主防災組織連絡会	6.5.11	土	13:00～ 14:00	斑鳩町西町会館	発足決意大会及び設立総会	小山	20人	
7	奈良市 奈良地方気象台	6.5.13	月	15:00～ 17:00	奈良地方気象台	気象台懇談会(本年度の打合せ等)	末田、植村、八幡領、板垣、小山、大坂間、村山	14人	
8	三郷町 三郷町教育委員会	6.5.16	木	08:45～ 13:00	三郷中学校 体育館	三郷中学校 防災訓練	末田、北村(厚)、澤、吉田、近藤、伊東、天井、高田、西村、三郷町防災士	180人	
9	王寺町 王寺町防災士ネット トワーク	6.5.18	土	10:40～ 12:00	王寺町やわらぎ会館	王寺町防災士ネット総会	植村、八木沢	37人	
10	高田市 大和高田市民生児童委員協議会連合会	6.5.21	火	14:30～ 15:30	総合福祉会館 ゆうゆうセンター	総会研修「災害時における民生委員・児童委員の役割」	植村	90人	